

【実績】弊社大学IR業務支援トータルソリューションサービスについて

大学IR業務支援 トータルソリューションサービス

これまでの弊社実績事例をベースに**大学IR業務支援サービス**をご提供いたします。
(過去10年間)



※上記各サービスはご要望に応じてご提供いたします。

Copyright © 2021.ThinkBase,Inc. All Rights Reserved.

他大学様における弊社の実績【更新版】

- 他大学様における、弊社の学生情報分析に係るプロジェクト支援実績の概要を以下に示します。

項番	プロジェクト概要	支援実績内容	実績結果 (評価/状況)
1	学生ポートフォリオ分析 (学生情報傾向分析) * 経済、社会情報、 人間科学系私立大学	教学系(成績、履修登録、修得単位、GPA、出席、課外活動、就職活動、奨学金、等)データ(卒業生、過去10年間及び対象期間4年間)より学生情報の現状調査・傾向分析を実施 1. 進路決定者傾向分析 2. 成績、履修登録、出席、入試区分・試験区分、等、傾向 3. 奨学金、課外活動、インターンシップ活動 等 4. 留年・中退者の傾向 * 各学部、学科毎に調査	◆ 本学教学系データの傾向分析して全体像の把握と重点とすべきデータ(指標)の設定ができた。
2	学生情報シナリオ分析案提言 (就職成功者、中退/留年者の足跡・傾向分析) * 経済、社会情報、 人間科学系私立大学	学生情報シナリオ分析案提言(就職成功者、中退/留年者の足跡・傾向分析) 1. 優秀学生における進路決定状況分析(業種別) ・ 成績、履修登録、就職活動、インターンシップ、資格取得、課外活動、等の相関関係による個別分析 2. 就職成功者の足跡、分析シナリオ(案)提言 3. 中退/留年者の足跡、分析シナリオ(案)提言	◆ 本学教学系データ傾向分析により進路支援部門への重点とすべき分析提言ができた。 ◆ 今後、教学部門との連携強化が図れる。
3	学生情報分析モデル構築 (留年・中退防止対策分析モデル) * 経済、社会情報、 人間科学系私立大学	定常的な学生情報分析を基にした留年・中退防止に向けた対策の実施 1. 分析トライアルからの分析対象範囲の拡大(対象母集団の拡大等) 2. 分析モデルの確立(統計学分析手法を活用) (分析対象項目及び分析手法の整理/最終化) 3. 現行の教務系システムを活用した場合のデータ運用ルール等の整備	◆ 留年・中退防止対策分析における重点データの定義ができた。 ◆ 留年・中退防止対策分析モデルを提言。

他大学様における弊社の実績【更新版】（続き）

- 他大学様における、弊社の学生情報分析に係るプロジェクト支援実績の概要を以下に示します。

項番	プロジェクト概要	支援実績内容	実績結果 (評価／状況)
4	学生情報分析、定性調査・分析 (休学者、退学者における定性調査) * 経済、社会情報、人間科学系私立大学	教学系データ（対象期間：5年間）休学願・退学願の申請書をデータ化して現状調査・傾向分析を実施 1. 休学願・退学願（5年間）の調査（洗い出し） 2. 休学者・退学者の事由内容の調査（洗い出し） 3. 各事由内容のカテゴライズ・調査 4. 面談方法（面談シナリオ）の策定 5. 各種申請時における年間の改善アクションプランの（立案）策定	◆ 現状調査・定性分析により本学における休学・退学者の事由内容から具体的な要因を体系化して対象者に対するの対策方法が標準化（可視化）され今後、対策結果をフィードバックして活用できる。
5	学生ポートフォリオ分析 (学生情報傾向分析) * 工業系私立大学	学生情報傾向分析教学系データ（卒業生：対象期間5年間）より学生情報の現状調査・傾向分析を実施 1. 在籍区分、卒業生における進路傾向 2. 入試制度、在席区分、からみた場合の傾向 3. 卒業生における進路決定者と未決定者の比較（入試制度、成績、課外活動） 4. 就職決定者の傾向（業種、企業規模別、本学卒社員数） 5. 留年・中退者の傾向（入試制度、成績、課外活動、奨学金受給有無） 6. 入学前教育と成績の傾向 7. 現役卒業率及び退学率、現役卒業及び就職率、就職率及び進学率、等に関するベンチマーク * 上記学部・学科別・男女別での調査、分析	◆ 今回の傾向分析により「入口から出口」への一貫した分析結果を基に一元管理して更なる分析活用を実施する。

他大学様における弊社の実績【更新版】（続き）

- 他大学様における、弊社の学生情報分析に係るプロジェクト支援実績の概要を以下に示します。

項番	プロジェクト概要	支援実績内容	実績結果 (評価/状況)
6	教学IR成績管理GPA 公表ツール構築 * 経済、社会情報、 人間科学系私立大学	教学系データからの学生情報分析の成果として成績情報や出席情報等のデータを基に、「現役卒業の危険性が高い学生」を効率かつ的確に抽出可能であることが確認され、教務業務において統計学的データ分析プロセスを取り入れ現役卒業率の向上を図るため分析ツールを構築しました。 1. 学生毎の現役卒業診断機能（現役卒業率を算出） 統計的分析手法（回帰モデル）を活用 2. 学部、学科、学生平均と個人との比較推移、グラフ （修得単位、GPA、出席率：月別） 3. 教学データ条件検索機能 4. 学生毎の帳票出力機能 （成績表の補完資料としての活用、教育懇談会での活用 等）	◆ 現役卒業率の向上及び 中退/留年率の減少。 ◆ 本学学生支援業務に関 わる負荷軽減及び業務 効率への寄与。
7	大学IR展開活動支援 * 経済、社会情報、 人間科学系私立大学	教学IRデータ分析の実績評価を基にIRを軸にした「教育改革マネジメント・サイクル」実現を目標として第1次ステップとして現状調査・分析を実施中。 1. 全学共有すべき情報の調査 2. 他大学事例調査 3. 文科省、大学ポータルレート等の外部機関の動向調査 4. 「大学ポータルレート」対応の検討支援 5. 関連部門調査（ヒアリング） 6. 課題整理と対策検討 7. 自己点検・評価、項目を識別 8. 本学IR業務分掌規程の定義 9. 認証評価機関への次回認証取得（改善結果の報告内容案検討）支援 等	◆ IRを軸にした情報一元 化の土台作りを実施中、 外部調査機関より調査 依頼業務の負荷軽減の ために「大学ポータル レート」対応をベース に自己点検・評価、項 目も一元化したデータ 項目の一覧化を実施い たしました。

他大学様における弊社の実績【更新版】（続き）

- 他大学様における、弊社の学生情報分析に係るプロジェクト支援実績の概要を以下に示します。

項番	プロジェクト概要	支援実績内容	実績結果 (評価/状況)
8	教学IR分析支援 プロジェクト支援 * 経済、経営、法律 文学、心理、系私立 大学	教学系データから学生情報分析の成果として成績情報や出席情報等のデータを基に、 留年、中途退学者への傾向分析および分析結果に基づいた対策を検討して実践中、 学生の学習成果の成長度合いを調査・分析を検討 また、弊社が開発した教学系IRデータ・マートシステム「GrowthSystem」を活用し て教学IR業務支援の定着化を図るため実行中です。 1. 現状調査 課題点整理 2. 教学系データの洗い出し（整備） 3. 教学系データ・テーブル定義（分析用データの一元化） 4. 各種分析作業・分析アウトプットの選定	◆ 現役卒業率の向上及び 中退/留年率の減少の 期待効果 ◆ 本学学生支援業務分析 に関わる負荷軽減及び 業務効率への寄与。
9	教学IR業務展開活動 支援 * 経済、商学、経営、 工学、芸術、国際文 化、情報科学、系私 立大学	教学系データよりIR業務における各種分析アウトプット（テンプレート）の検討及び 作成をしてIR業務展開活動の一環としてプロジェクトを実施しています。 1. 教学系データの現状調査（データの洗い出し） ・ 教学IR用統合DB（データマート）の構築 2. 分析アウトプットの検討 ・ 文科省、私学共済事業団、等の外部機関の動向調査 3. 上記2. における定期調整票のテンプレート化 4. 入学者傾向分析、各種テンプレート化 5. 在籍者傾向分析、各種テンプレート化 6. 退学者傾向分析、各種テンプレート化 7. 卒業生傾向分析、各種テンプレート化	◆ 教学IRを軸にした情報 一元化の土台作りを実 施中、外部調査機関よ り調査依頼業務の負荷 軽減のために「学校基 本調査」「学校法人基 礎調査」業務対応を ベースに自己点検・評 価、項目も一元化した データ項目の一覧化を 検討中。

他大学様における弊社の実績【更新版】（続き）

- 他大学様における、弊社の学生情報分析に係るプロジェクト支援実績の概要を以下に示します。

項番	プロジェクト概要	支援実績内容	実績結果 (評価／状況)
10	<p>IR支援システムプロジェクト支援</p> <p>* 人文社会科学、教育、情報、理、工、農、系国立大学</p>	<p>学校基本調査、大学ポートレート、などの定期調査報告データから経年変化、ベンチマーク、業務支援システムを構築、IR業務支援へのデータ一元化（データマート構築）により作業効率とIR業務効率化を実施。</p> <p>当該IR支援システム（データマート）をメインに全学IR（教学、研究、社会連携、業務運営）のデータ一元化の拡充を実施します。</p> <p>全学IR業務分析の定常化を図るための機能拡張を継続中です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学校基本調査、大学ポートレート、各種データ一元化による業務効率の向上（経年変化、ベンチマーク） ◆ 経営層へのタイムリーな情報提供 ◆ 本学IR業務分析に関わる負荷軽減及び業務効率への寄与。
11	<p>大学IR学外向けサイト構築支援</p> <p>* 人文社会科学、教育、情報、理、工、農、系国立大学</p>	<p>全学IR業務における各種分析アウトプット（テンプレート）の検討及び作成をしてIR業務展開活動の一環として学外向け情報公開サイトを構築いたしました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. IR業務で分析した情報をグラフ化して分かりやすくサイトへの情報公開 2. サイト公開のグラフ作成機能を簡素化して分かりやすく表示 3. タイムリーに情報公開が可能となりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 全学IRを情報を一元化した結果、情報公開が手軽に可能となりタイムリーな情報配信が可能となった。 ◆ 対外的な情報公開の定常化が図れるようになりました。
12	<p>大学IRファクトブック作成支援</p> <p>* 人文社会科学、教育、情報、理、工、農、系国立大学</p>	<p>全学IR業務における各種分析アウトプットの検討及び作成を行いIR業務情報公表活動の一環として本学のファクトブック作成支援を実施いたしました。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. IR業務で分析した情報をグラフ化して分かりやすくファクトブックへの編集作業を支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 本学IR業務分析に関わる負荷軽減及び業務効率への寄与。 ◆ 対外的な情報公開の定常化が図れるようになりました。

他大学様における弊社の実績【更新版】（続き）

- 他大学様における、弊社の学生情報分析に係るプロジェクト支援実績の概要を以下に示します。

項番	プロジェクト概要	支援実績内容	実績結果 (評価／状況)
1 3	大学IR業務分析・調査支援 * 人文社会科学、教育、情報、理、工、農、系国立大学	全学IR業務における現有の各種データ調査と分析アウトプットの検討及び作成をして今後のIR業務における更なる業務効率化の提言をいたしました。 1. IR業務で分析した情報を整理して深耕分析のアウトプットを作成 2. 『学びの実態調査におけるアンケート』調査・分析を行い今後の可視化方法について提言をいたしました。 3. IRアウトプット作成における情報公表の効率化、省力化における提言をいたしました。「IR学外公表サイト情報配信機能提案」 ※ 1. 深耕分析は弊社分析手法です。	◆ 全学IRを情報を一元化した結果、情報公表が手軽に可能となりタイムリーな情報配信が可能となった。 ◆ 今後のIR業務における情報の共有化、効率化、省力化の向上
1 4	教学IR業務支援 学生情報分析 留年・中途退学、要支援学生の調査・分析 * 文学部、経済、経営、法、政策、国際、理工、社会、農、系私立大学	学生情報（教学系データ）から動向調査・分析を実施するためのデータ一元化（データマート構築）により成績不振者、留年・中途退学者（要支援学生）の分析を実施。また、分析結果をもとに各種分析アウトプットを作成して要支援学生の対策を検討し改善案を提言しました。 更に2年目も継続してIR業務支援を実施、特に要支援学生（成績不振、留年・中途退学）への予防対策の深耕分析※1を実施、改善効果を提言いたしました。 1. 現状調査 課題点整理 2. 教学系データの洗い出し（整備） 3. 教学系データ・テーブル定義（分析用データの一元化） 4. 各種分析作業・分析アウトプットの選定 5. 要支援学生への面談シートの見直し（改善案検討） ※ 1. 深耕分析は弊社分析手法です。	◆ 各種データ一元化による業務効率の向上（経年変化、ベンチマーク） ◆ 現役卒業率の向上及び中退/留年率の減少の期待効果 ◆ 本学学生支援業務分析に関わる負荷軽減及び業務効率への寄与。 ◆ 本学教学マネジメント実践への教職員の意識向上

他大学様における弊社の実績【更新版】（続き）

- 他大学様における、弊社の学生情報分析に係るプロジェクト支援実績の概要を以下に示します。

項番	プロジェクト概要	支援実績内容	実績結果 (評価／状況)
15	<p>大学IR業務分析・調査支援</p> <p>* 人文社会科学、教育、情報、理、工、農、系国立大学</p>	<p>全学IR業務における現有の各種データ調査から研究IRの一環として『研究力の分析に資するデータ標準化』について標準化に向けたデータの整備、業務効率化の検討を実施しました。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 研究内容と財務情報とのデータ調査および整備を行い情報の一元化を行いました。2. 研究IRにおける調査・分析を行い業務の定常化できるよう業務の流れを定義、検討を実施中です。3. 研究IR業務における効率化、省力化ならびに研究情報の可視化を進めていきます。4. 内閣府向け『研究力の分析に資するデータ標準化』納品用データベース構築支援実施	<ul style="list-style-type: none">◆ 今後の研究IR業務における情報の共有化、効率化、省力化の向上◆ 研究IRにおけるパフォーマンス可視化を推進中
16	<p>大学IR業務システム構築支援</p> <p>* 保健医療福祉学、看護学、理学療法学、作業療法学、社会福祉子ども学、健康開発学、系公立大学</p>	<p>貴学において教学マネジメント（IR）業務の検討・実施を行い教学マネジメント（IR）業務におけるIRデータベースの構築ならびに全公立大学のIR用データベース構築支援を実施いたしました。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 短期間（2ヶ月間）の早期構築により貴学での教学マネジメント実践的分析がスムーズに着手できるようになりました。2. 更に、当IRデータベース保守運用作業の遠隔保守が可能となり遠隔地においても迅速な運用サポートが可能となりました。※遠隔サポートサービスのご提供3. 今後のIRシステム拡張についてもスムーズな機能拡張ならびに運用作業の実現ができます。※ポストコロナ社会におけるIR業務しくみのご提供	<ul style="list-style-type: none">◆ 今後のIR業務における情報の共有化、効率化、省力化の向上◆ 遠隔運用サポートにおける迅速な対応◆ ポストコロナ社会におけるIR業務のしくみのご提供